

くらしの文化財探索 5

厚木市郷土資料館

一四三〇〇三 厚木市寿町二十五・二十六

「くらしの文化財」とは何でしょうか。文化財として国や県、市町村から指定されていなくとも、「ふるさと」にとって大切なものはたくさんあります。あつぎに暮らす者として、「民俗文化財」とは何か、どのような意味を持つのか、それを「くらしの文化財」資料から実感し、興味を深めていきます。自分自身の日常生活、生活慣行を、民俗文化財としてみなおすためのイベントとなるような講座を目指しています。

いよいよ、展示会がはじまりました。最後の週には、台風の中で集まった衣の担当グループをはじめとして、食、住のグループも最後の打ち合わせを行い、担当者にリクエストを出していかれました。お応えできたところもあるのですが、間に合わなかったところもあり、近々に対応いたします。八日のオープンでは、展示発表会兼キャリアトークのような感じで、皆さんから次のように、さまざま意見、修正案が出されました(=写真添削)。担当者が、ボチボチと修正しているのですがまだ終わっていません。その後、外山さんが「ふのり」をもってきて下さったり、「モノは伝える」を届けてくださる会員もいて

*

【茶の間 全体】
キャプションは一点一点につけず、全体の写真に絵引きのような感じで絵解きをする。氷式冷蔵庫、障子はレプリカなどの注記必要。三十年代のカレンダーでもあるといいのではないか。すみません探せませんでした。
岸ユリ氏作品には、作品名だけでなく、展示した理由を記したキャプションがほしい。
展示室前のケースには『婦人之友』くらしの手帖』三十年代のものから衣食住に関する部分を紹介する展示とした(実習生担当)。
建築を専攻していた会員から、「この時代は、主婦の仕事量との兼ね合いで、旧来の住宅構造、住まい方が否定された時代。特集にもそのようなものが多いはず」との指摘を受けた。

【衣のコーナー】
「小学生は何を着ていたか」のコーナー、解説パネルの位置が低い。



台をあげたい。

OK

キャプションは資料ごとに一点ずつける。

メートル法の物指だけでなく 鯨尺のものが必要。

OK

【住のコーナー】

灯り移り変わりが、燃料別に、ランプ台は最後のところ置くこと。

OK。武田さん 柳下さんが八日に残って直してくれました。

蚊帳のつり方が少しおかしい。直したい。入り方についての説明もどこかに置きたい。中に玩具などをおいてもいいかも知れない。OK。武田さん、柳下さんが八日に残って直してくれました。

【食のコーナー】

蒸籠は家庭用の通常サイズのものを用意すること。



箱膳のパネル

の位置を訂正すること。OK

裏張り昭和五年出納帳はきちんと説明を置くこと。

*

さて、「遊」の二つの講座についても報告いたします。まずは、九月八日に行われた、竹とんぼ教室です。

当日は、船喜多神社の祭礼用に灯籠作りがあり、周辺の子供たちが皆いなくなってしまうという悪条件の中でしたが、数名の子供と、数十人の「もと子供」たちとで楽しい時間を過ごしました。会員の中丸さんは軸を一穴にして軸ごとトンでいくたポピュラーなタイプの材料を用意してくれました。作成後、みなで飛ばす段になり、座間、秋田で幼少時を過ごした会員から、羽根に空いた二穴で接続し、軸とは固



定せず、羽根だけ飛ばすタイプで遊んだ話を聞きました。遊びにも地域差がみられますが、これはどんな分布になっているのでしょうか。

そして、九月十日は、琴三人の会による、わらべうたと和楽器によるミュージアムコンサートです。邦楽になじみの

薄い現代の子供たちにも和楽器のよさを知ってもらおうと、佐藤みはるさんをお願いし、そのため琴の伴奏に合わせてわらべうたを歌うというプログラムも組んでいただきました。が、この日、小学校はすでに通常授業となっており、午後一時からのコンサートには参加できません。担当者はまたも日程の過ちを犯してしまいました。しかし、この日もおおげいの「もと子供」が集まり、用意された「わらべうた」



を歌う頃には、童心にかえっていたようです（＝写真下）。一般の参加者から届いた、次のお手紙をここで紹介させていただきます。

「今日は、思いがけず、琴の演奏を聴かせていただきありがとうございました。とても懐かしく

特に千鳥の曲は母が大好きで、よく聞かされておりましたので、琴の音に母の姿を重ねて聴かせていただきました。本当にありがとうございました。いました」

この楽しい講座は、どちらか会員によるパフォーマンスです。今回の展示会は、あくまでも市民協働ということにこだわっています。

*

月 日	時 間	学 校
9月13日	1 - 4時限	清水小学校 (妻田西 3-18-1)
9月14日	1、3、4時限	厚木小学校*
9月14日	3、4時限	戸田小学校 (戸田 245)
9月18日	1 - 4時限 (給食時間まで)	第二小学校 (旭町 5-38-1)
9月19日	3、4時限 (給食時間まで)	北小学校 (山際 658) **
9月20日	3、4時限 (給食時間まで)	緑ヶ丘小学校 (緑ヶ丘 4-1-1)
10月4日	未定	毛利台小学校 (毛利台 1-23-1)
10月11日	2、3時限	南毛利小学校 (長谷 1085)
10月15日	2 - 4時限	三田小学校 (三田 515)

もう一つの関連事業である、学校での出前講座も九月十二日から始まりました(=左表参照)。今展示会のメインターゲット・小学四年生に、自分たちの思いを直接伝えていくチャンスです。担当者としても、経験したことはないことを「こうだった、ああだった」とリアリ

ティのないことばで伝えるより、会員の方ご自身が経験してきたこと、自分たちのくらしがどう変わってきたのかを「肉声」によって説明し、伝えていただけるだけで本当に助かります。そして、このことがどれだけ意味のあることが、学校の先生方も感じていただけているようです。ただ、実際にはじまつてみると、会員からいろいろな意見がでてきます。例えば、授

業時間の「四十五分は短い」、また逆に「長い」と感じる人もあるようです。大人に話すような言葉で話しても通じませんし、伝えたいことを手短かに、できるだけやさしい言葉で、分かってはいても実際にはとても難しいことです。

子供たちにとって「昔のくらし」とは、そして「厚木」とは何か。伝えたいことは何なのか、それを伝えることはどういった意味をもつのか、「伝える私たちの側にもいろいろな問いかけが返ってきます。」「郷土意識の涵養」、資料館の役割の一つですが、では郷土意識とは何か、「厚木とは何か」と問われると考え込んでしまいます。

このような作業は、むしろ、どんな「厚木」を作っていきたいのか。住み続けたい街・厚木を作るといふことはどういふことなのか、といったことに有効な気がしています。この展示会、出前講座が終わるまで、会員の皆さんとともに考えていきたいと思っています。

*

一回、学校へお邪魔させていただけると、一学年で一五〇名程度の御利用になります。十校で一五〇〇人です。資料館で二ヶ月間の展示会、その間に二、三回の講演会、体験講座などを行っても見学者数は一〇〇〇人に達しません。十日で一・五倍以上です。プラネタリウムがあり、バスで学校からの定期的なお客様が見込める大きな博物館がうらやましいと感じるのはこんな時です。皆さんとは関係ありませんが、今回の展示では、いろいろなことを考えます。(担当 大野)